

「兵戈無用」を未来へ

ロシアによるウクライナ侵攻も収まらない内に、アフリカの Sudan で内紛が没発しています。今更ながら、人は争う事が尽きないものだと思えます。

浄土三部経の一つである『仏説無量寿経』に「兵戈無用」という言葉があります。お聞きになったことがあるかもしれませんが、それはどうゆう文脈で出てくるかというところ、お釈迦さまが、人間のつくるこの世界は「五悪」という五つの大きな問題をはらんでいると

いうことを説いていきます。そうして、そんな問題があることをみんなに気付いてもらうために自分は教えを説いているのだとして、その教えが及ぶところは「国豊かに民安し。兵戈用いることなし」と語られています。しかし、自分の没後はその教えも衰退し、人々はまた悪を犯すようになるだろうから、そのときにはしつかりと仏道を説いてほしいと伝えるのです。そして、お釈迦さまはそれを弥勒菩薩に向けて説いてい

ます。弥勒菩薩というのは、五十六億七千万年後に兜率天からこの地上に降りて法を説くとされている未来の仏です。想像できないほど先の未来ですが、それは、永遠の未来と言えらると思えます。つまり兵戈無用とは、過去から未来へ向けて歴史を通しての永遠の課題であり、その実現に向けて歩んでほしいという願いを、お釈迦さまは未来仏である弥勒菩薩に託したのです。その願いが成就されることを念じ、現代に生きる私たち一人一人が「兵戈無用」を訴え続けることで、未来へ安穏な世の中を残すのが務めです。

なく、動物も昆虫も植物も、この世にムダないのちなど、ひとつもありません。すべてのいのちを等しく大切に思い、どんなときも感謝の気持ちで忘れずにいたいと思えます。そして、そのいのちが数多く失われるのが戦争です。どのように正当性を主張しても、決して正義の戦争というのではないのです。また欲の張り合いで引き起こされる争いも多くあります。足りていると感じるか、足りないと感じるかは自分次第です。

戦争当事国は、一刻も早く会話での解決をしてほしいものです。また、他の地域でも戦争が起きないことを願います。